

<参 考>

1 愛知県の「つまもの」生産について

愛知県の「つまもの^{※1}」のJA系統販売額は170億円（2024年産）で、全国統計はありませんが、日本一の産地と言われています。

「つまもの」の代表的な品目である「大葉（施設で栽培する青しそ）」では、産出額が全国1位で、高いシェアを占めています（表1）。

表1 しその産出額及び出荷量の全国順位^{※2}

順位	県名	産出額（億円）	出荷量（t）	
				シェア（%）
1	愛知	139（111 ^{※3} ）	3,990	51
2	大分	16	534	7
3	福岡	5	123	2
全国計		193	7,750	100

※1 愛知県つまもの振興協議会では、「大葉」、「菊花（食用ぎく）」、「きくほなしその花穂」、「はなほハーブ類」、「エディブルフラワー」などを「つまもの」と定義しています。

※2 しその産出額及び出荷量は、施設栽培と露地栽培の合計値。（産出額：生産農業所得統計（2023年）、出荷量：地域特産野菜生産状況調査（2022年））

※3 愛知県つまもの振興協議会の「大葉」の産出額（2023年）

2 愛知県つまもの振興協議会について

目的：つまもの野菜に関する生産技術、販売方法、需要拡大、担い手の育成等

設立：1981年

構成：つまものを生産・販売する6組合（表2）

会長：富永 諭司 氏（豊橋温室園芸農業協同組合 組合長）

協議会員：363戸

販売額：約17,070百万円（2024年産）

産地の特徴：

- ・大葉を始めとしたつまもの類の豊富なラインナップを周年供給し、出荷量は全国1位。
- ・葉が柔らかく、色鮮やかで香りが強く、病害に強い品種[※]を栽培。
※県とJAあいち経済連の共同育成品種である「愛経1号」、「愛経3号」
- ・防虫ネット、黄色蛍光灯など農薬に頼らない栽培手法を実践。
- ・つまもの消費拡大に向けた消費宣伝活動。
（良いつまもの日（4月12日）、ハーブの日（8月2日）、いい大葉の日（11月8日））
- ・SNSを活用した大葉レシピの発信。

表2 愛知県つまもの振興協議会の構成

組合名（設立順）	主な産地	農家戸数	主な作物
豊橋温室園芸農業協同組合	豊橋市	214戸	大葉、食用ぎく、豊橋花穂、きく葉、ハーブ類等
東三温室園芸農業協同組合	豊川市	82戸	大葉、食用ぎく、ハーブ類、さんしょう等
三河温室園芸組合	蒲郡市	37戸	食用ぎく等
ひまわり農業協同組合	豊川市	17戸	大葉
豊橋農業協同組合	豊橋市	5戸	大葉
愛知みなみ農業協同組合	田原市	8戸	大葉